

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500021		
法人名	社会福祉法人 鶴丸会		
事業所名	グループホーム・ユートピア		
所在地	伊万里市大川町大川野字赤坂1647番地		
自己評価作成日	令和6年1月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年2月28日	外部評価確定日	令和6年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>2023年度ユートピアスローガン 人を元気に！町を元気に！今できるベストを尽くす！</p> <p>9人×2ユニットだが、「18人で1ユニット」の意識で職員みんなで入居者さんみんなを見るよう話している。</p> <p>地域的に緑が多く自然を感じやすい環境なので、外気浴や散歩等屋外での活動も積極的に取り入れるよう努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>長閑な田園風景の中に当法人は建っている。デイサービス事業所とグループホームの2ユニットが隣接し、高齢化社会が迫る中で地域の拠り所となっている。地元小学校の高齢者教室では専門知識を持つ事業所として貢献し、地域住民からの協力体制は運営推進会議資料からも読み取れる。今年度のスローガンに「人を元気に！町を元気に！今できるベストを尽くす！」と掲げ実践しているのが窺える。また「入居者のために」が軸としてあり、担当職員が行った受け持ち入居者への工夫が、全体に広がりを見せつつある点もこれからの期待値である。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に表示し、年度のスローガンと一緒に毎朝の申し送りの中でその日の出勤者で唱和している。職員一人一人に定着するよう、また、ケアの中で実践するよう努めている。	1と同様に行っている。	事業所独自の理念に加え、法人全体、更に同グループ法人の理念も目に付く場所に掲示され唱和と共に意識付けを図っている。「ありのままに穏やかに」と始まる事業所の理念は、入居者のペースで入居者らしくという姿勢に表れ、「ゆったりと楽しく自由に」「残された力で暮らしの喜びと自信を」、更に「地域の方達との交流」と謳い、常に立ち戻る基本として実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナが5類になったこともあり、夏には盆踊りで地区の子ども会の方々に来てもらったり、1年通して施設全体へボランティアさんの訪問がありその際グループホームからも参加しデイサービス利用者さんと一緒に楽しんだりと交流は少しずつ増えてきている。12月後半にコロナ陽性が確認され、その間は外部との関わりを制限することもあった。	1と同様に行っている。	法人として自治会に加入しており、地域の情報も法人経由で届いている。地域との繋がりは隣接する事業所と一体で保ち、法人鶴丸会として基盤を築いている。コロナ禍を経て、交流も少しずつ緩和され、入居者が当たり前の暮らしを続けられるよう支援している。見守りや緊急時の応援などを頼める関係も維持できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会の皆さんの活動の認知症サポーター養成講座へ参加したり、社会福祉協議会の活動で小学校への高齢者教室に参加したりしている。同じ職員ばかりではなく、色々な職員が交代で地域との繋がりに関われるように調整している。	1と同様に行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度の開催としているが、2月時点で今年度分5回開催しておりその内1回は雪のため当日開催が難しく書面で確認をお願いした。内容はこれまで通りグループホームの状況を報告し、その都度委員さんたちからご意見を頂きその後のサービスや見直し等に生かしている。	1と同様に行っている。	会議は14時半から概ね一時間を要し双方向な意見交換の場となっている。メンバーには行政側の他、地元役職者や駐在所も加わり、交代制で参加する家族にとっても直に関わる有意義な時間となっている。それぞれの立場から情報も寄せられ、地元役員から避難訓練への参加協力の申し出があった件では、早速、直近の訓練で活かす予定である。外部の人の目が入る運営推進会議を地域の理解と支援を得る機会としても活用しているのが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市役所からも参加いただいております、意見や質問を頂いたり相談事にも応じていただいたりして連携を図っている。	1と同様に行っている。		問い合わせ等があればまず電話を掛け、内容によっては直接出向くこともある。管理者がケアマネジャー職の会長を務めていることから日頃より地域包括支援センターとの繋がりもある。行政側とは実直に対応してもらえる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の必要性がある入居者様がいらっしゃる際は身体拘束委員会で話し合いをするとしているが、現在は対象者・状況がなく、委員会の中で現在はないということを確認しその都度研修を行っている。 玄関の施錠等についても夜間のみと定めそれ以外は開錠していたが、一時期コロナ対応中の期間があり、その際は自動ドアだけを止めていた期間もあった。	1と同様に行っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。その中では転倒等のリスク面も正直に伝えている。事業所では身体拘束をしないケアを原則とし、職員はその内容や実施した場合の弊害まで理解している。定期的な勉強会もあり、玄関に施錠もない。職員の目配りや気配り、また人数を数える習慣も相まって安全で自由な暮らしが支援されている。仮に不適切なケアが見られた場合は、まず本人に理由を尋ね考えさせ、内容によっては全体へ提起することとなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加し、その資料をもとに職員に伝達している。また、通常時もミーティングや申し送り時などに確認している。	1と同様に行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員一人一人が学ぶ意識を持ち、研修等への参加も検討しているが、なかなか全体への教育等までは届いていない状況。	1と同様に行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込み時にグループホームに関する説明を行い、なるべく一度見学して頂いた上で最終的に入居を決定され契約していただくという流れをとっている。	1と同様に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支払や面会等家族様来所の際に、現場の職員から最近の様子を伝え、家族様の意向を確認する。また、玄関に意見箱を設置し、意見・要望がある際は入れてもらうようにしている。	1と同様に行っている。	毎月の利用料請求時には、担当職員による近況報告とベストショットという写真を同封している。四季毎に発行されるホーム便りがあればそれも添えられる。支払い方法を敢えて持参としているため家族と直接会う機会も多く、世間話等を交えながら気軽に話してもらえよう努めている。コロナ感染症が5類へ移行後は面会も緩和されているが、LINEアプリを活用したやり取り(連絡事項・日常の一コマ写真など)も増えている。今回の当外部評価アンケートには家族からの意見も寄せられているが、出された率直な意見は前向きに活かす姿勢も窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主にユニット主任が職員の意見を確認し、状況に応じて、管理者、施設長等が入ることもある。また、毎月のミーティングでもそれぞれ職員から意見を出してもらう機会を作っている。	1と同様に行っている。	毎月の職員会議は、場合によっては2時間ほど掛かることもある。全体会議(勉強会含む)の後、ユニット毎に分かれる段取りである。休みの職員は出席しないが、LINE WORKSアプリの活用によって事前の意見集約もでき参加は可能といえる。ユニット毎ではカンファレンスや所内の課題等が話し合わせ、意見は活発に出されている。出勤時に必ず目を通す「連絡事項」は先のアプリからでも閲覧可能なため周知漏れはない。また管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、共通の話題を見つけて話し掛けたり、定時での帰宅や休暇取得にも応え、現場の声は法人上席にも届けている。管理者が自らの課題としているのが次のリーダー育成である。現場にある程度の裁量を持たせ管理者は後方支援の立場を取っているが、時には伴走にも期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い個々の評価をしている。資格取得や各研修への参加を促している。	1と同様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、様々な内容の施設全体での研修会が開催されており、関係機関や法人内の研修等に参加する機会もある。外部研修等への参加も少しずつ行えた。	1と同様に行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、他のホームと交流を持つ事で意見交換等行っている。実践発表会等で報告があったことは施設全体で共有したりもした。	1と同様に行っている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の話を傾聴し、安心感を与えられるような声かけを職員全員で心がけている。また、誕生日等の特別な行事の時はしたいことや行きたいところ等可能な範囲で聞き対応している。	1と同様に行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様、家族様の話もしっかりと聞かせていただき、家族様の意向をくみ取るように留意している。	1と同様に行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の意向を重視し、サービスの検討を行っている。	1と同様に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の対応の中で、これまでされてきた日常生活上の仕事や作業等を入居者様達と一緒にできるような対応に努めている。	1と同様に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナも5類になったことで、マスク着用等多少継続部分もあるが、基本的には以前同様面会等もいつでも可能という対応とし、家族での時間を楽しまれる機会も増えている。また、可能な範囲で受診対応をお願いすることもある。	1と同様に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前デイサービス利用されていた方も多いので、同敷地内のデイサービス利用者とは話をする機会を作るなど、昔馴染みの人と話をする機会を作っている。 誕生日等に自宅に行き、家族で過ごされる等も行った。	1と同様に行っている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネジャーや利用していたサービス事業所からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援が生まれ、電話の取次ぎはいつでも可能であり、手紙の返事でも手伝いを心掛けている。またコロナ禍を経て正月の帰宅や、配偶者の葬儀、後の法事まで参列した例もある。馴染みの美容院へ通う方もあり、入居者が大切にしてきた関係は維持されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、調子がいいときは入居者さん同士コミュニケーションをとりながら楽しく過ごされるが、調子がよくないときは職員が間に入ったり、一旦距離をとるなどの対応をし、関係性が悪くならないよう注意している。	1と同様に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等での退居の場合は可能な範囲で病院訪問時に連携室から情報を得たりしている。町内で家族様に会った際には様子を伺っている。	1と同様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者毎に担当職員を決め担当を中心に日常の会話の中で、本人様の思いや今やりたい事等を聞きながらできる範囲で実践・対応している。訴えのない入居者の場合は、家族に本人様の好きな事、得意な事等を聞き取り、できる範囲でホームでの生活に取り入れ実践するよう努めている。	1と同様に行っている。	入居者との会話で心掛けている事がいくつかある。まず目線を合わせる、答えに選択肢を用意した問いかけ方やスキンシップ等がそれであり、何より待つ姿勢を大切にしているのが窺える。発語の少ない方とは昔の歌などがきっかけとなることもある。入居者が想いを話してくれるのは入浴中の寛いだひとときや、隣に座り話し相手など一対一の時に多い。お気に入りの職員を待つ方もいる。聞き取ったことは口頭や記録に残すことで共有を図り、そこからケアプランに反映させた例もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様に入居時に聞き取りを行い、入居後もその都度日常の会話の中で聞き取るよう努めている。	1と同様に行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様のできる部分を意識し、一人一人のできることや状態の把握、また、それに合わせた対応を心がけている。	1と同様に行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様からの意向を中心にしながら、毎朝の申し送りや会議等で把握された本人様の状態に沿って、本人様にとっての必要なケアを考えている。	1と同様に行っている。	ケアプランの見直し期間は6ヶ月毎とし、その間に変化があれば臨機応変な対応である。入居して間もない時期は特に、観察を怠らないよう配慮もある。入居者の想いは日々のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時や電話での会話から汲み取っている。家族からは現状維持や外出希望の声がかかる。歳を重ねる毎に残存能力の低下は否めないが、職員は何にでも手を貸すのではなく、見守りの中で日々のケアに努めている。また毎月のモニタリングは職員会議のカンファレンスと併せて行い、実施状況を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を職員全員で確認できるようにし、業務中にも職員間で情報共有を行いながら対応している。	1と同様に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内や関係法人内の施設と連携を図り、柔軟な支援ができるように取り組んでいる。	1と同様に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としての活用等まではいっていないが、地区の子ども会やボランティアさんの訪問等地域の方の協力もあり、入居者さんたちの楽しい生活が叶えられている。また、3月に夜間の避難訓練を計画し、地域の方の協力を得ながら交流を図っていく。	1と同様に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけの先生を中心に本人様、家族様が主治医を選ばれ、定期受診は家族様での対応や訪問診療等含め計画的に行っている。先生への伝達で必要に応じ職員が手紙を書いたりして伝えることもある。突発的な受診は職員が対応し、状況の報告等を家族様へ行っている。	1と同様に行っている。	入居前からの馴染みの医師に診てもらう方や、入居後に訪問診療等の説明を聞き協力医への変更を希望した方、また元々、協力医の患者だった方にとっては病歴等も知ってもらえている安心感があり、それぞれが希望するかかりつけ医である。法人母体が病院であることも心強い。受診には原則として家族の付き添いをお願いしており、その際には日常の様子を記した文書を渡している。突発的な受診は職員が対応するが、家族への結果報告は当日中に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が入居者様一人一人の状態の把握に努め、適切な対応ができています。介護職員は看護師に気づきや心配な事を報告・相談している。看護師が休みの日も24時間連絡はとれる体制をとっている。	1と同様に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に情報提供を行い、入院中の状態、退院時の情報も病院の連携室を通じての確認やピカピカリンク(佐賀県診療情報地域連携システム)の活用等で連携を取っている。	1と同様に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、家族様の意向を尊重しながら話を行っている。希望があった場合、本人様、家族様が納得して最期を迎えられるように準備している。	1と同様に行っている。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、家族と共にエンゼルケアまで施している。今後も希望があれば応えたいと考えているが、24時間対応の医師が必要になるため、入居者側でかかりつけ医等の見直しが必要な場合もある。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事とし医師からの説明もある。職員の勉強会は定期的に行う予定であり、家族向けの心構え等を記した冊子も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成しており、職員がいつでも閲覧・確認できるように事務所に配置している。また、法人内で緊急時の対応の研修も行っている。	1と同様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な事業所での訓練の実施と、夜間を想定した避難訓練を実施している。	1と同様に行っている。	年2回、隣接する同法人施設と合同の訓練である。昼間帯に実施し、夜間想定では夜勤者とみなした職員のみで初期対応を試みている。入居者も一緒に避難を体験し、職員は通報装置や消火器の使い方も理解している。近年の自然災害は侮れないことから、再度ハザードマップの確認を行い、コロナ禍を経た今後は地域住民の参加協力もお願いする予定である。職員のみでの避難・誘導の限界も認識しており、居室の入り口に貼られた車いすマークは外部の応援者に介助の度合いを知らせるためでもある。非常食や水の備蓄があり、避難先は同グループ法人の老健施設であることは家族へも知らせている。訓練後の気付き等はその場で指摘し、改善項目があれば後日全員に周知される。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に敬意を持って接するよう職員一人ひとりに常に伝え、場面に応じて適切な対応を行うよう努めている。	1と同様に行っている。	入浴やトイレの介助では羞恥心などへの配慮が求められる。職員は、ドアの閉め具合や周囲に見え難い立ち位置、またタオルの活用などを心掛け、同性によるケアが良いのか様子もみている。接遇の研修もある。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払い、個人名を使わず居室毎にある花の名前で疎通を図っている。ホーム便りへの写真等の掲載については入居時に承諾を得ているが、今後、居室の名札表示についても検討される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常の会話の中で入居者様の本音を引き出すような問い掛け、声かけを意識している。また、おやつを数種類の中から選んでもらうなど入居者様が自由に選べるシーンをなるべく作るようにしている。	1と同様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースや思いを大切に、その時その時の希望を確認するように原則している。しかし、数人の入居者様の対応でそちらに人手が取られた際に入居者様に色々と制限をかけてしまうこともある。	1と同様に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夏物、冬物等の衣類の交換を家族様にさせていただいており、選べる方は自身で選ばれ、少し支援が必要な場合はその中から季節や気温に応じた物がある程度職員が選び、その中から本人様に選んでもらったり、選ぶことが難しい方は清潔感等に気をつけたものを職員が選ぶこともある。	1と同様に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は現在チルド食で対応しており、献立は決まっているが、形態は入居者様一人ひとりに合わせた形で提供している。その時の調子や気分等にもよるが声掛けし、準備・後片付け等一緒にさせていただく機会も作っている。	1と同様に行っている。	事業所では炊飯のみで、主菜・副菜・汁物まで契約業者から届けられる。入居者毎の好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な食材には代替えもある。出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの思いから介助は最小限に止め、自助食器での工夫もある。食が細い方には、家族と相談し食べやすい高カロリー一食を届けてもらうこともある。職員の食事時間は別だが、見守りや声掛けで促しながら同席している。準備や片付けを手伝う入居者もあり、キッチンで洗い物をしている様子は家庭と同じである。また誕生日は当日に祝い、家族が訪れ一緒に食事を楽しんだり、本人の希望で寿司屋に出掛けた例もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を確認しながら、状態に応じて対応している。薄味等の対応もできる範囲で行っている。チルド食は業者の栄養士が立てた献立になっているので比較的栄養バランスについては問題ない。	1と同様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアを毎食後しっかりと行い、必要時には歯科医の診察も行っている。口腔ケアの際には、本人様ができる範囲は自身でしていたき、出来ない部分は職員が行っている。	1と同様に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて入居者様一人ひとりの排泄のペースやパターンを確認し、昼夜共に排泄誘導、声かけを可能な入居者様には行うようにしている。	1と同様に行っている。	排泄に関して自立した方も数名いるが、任せたままでなく、さりげなく見守っている。トイレ近くの居室にすることで、出来る事が活かせるような支援もある。事業所では、失禁があった場合でもすぐにパット類を使うのではなく、まず誘導や声掛けで様子を見るケアである。入居後の支援により使用するパット類がサイズダウンしたり、ひいては費用負担の軽減に繋がった例もある。トイレ内は車いす利用でも十分な広さがあり、L字型手すりや可動式ひじ掛けは自立を促す補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や腹部マッサージ、運動、必要時には服薬等便秘予防・対応に努めている。状況に応じ看護師へ報告・相談も行っている。	1と同様に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	全員が定期的に入浴ができるように曜日で入浴者を決め、入居者様の状態に応じた入浴の支援を行っている。職員の状況やその時の必要性等にもよるが、希望があった際には対応することもある。また、勤務等の状況で100%ではないが、希望に沿って同性での入浴介助もできる範囲で行っている。	1と同様に行っている。	入浴は週2回を目安にしているが、必要や希望があればこの限りではない。ひとりずつ、ゆっくりと寛いでもらう中で想いを話してくれる入居者もある。嫌がる方には無理強いせず、曜日やタイミングを変え、また長く続けば職員のテクニックを活かし誘導している。浴室には手すりや回転板を設置し安全な入浴に備えている。冬場は脱衣場の暖気を浴室側へ送りヒートショック対策としている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守るケアである。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様がゆっくり良眠できるように、居室の温度調節や採光等にも注意している。また、お昼寝など入居者様の希望に沿って、夜間の睡眠に支障のない程度のゆっくりする時間も入居者様に応じて対応している。	1と同様に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬情を確認し、入居者担当の職員を中心に職員全体で共有し、入居者様一人ひとりの状態把握を心がけている。	1と同様に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや新聞折り等入居者様に役割を持ってもらっている。また、週に何度か3時のおやつを数種類の中から好きなものを選んで食べるという取り組みも行って自己選択・自己決定の機会を設けている。	1と同様に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状況もあり、散歩程度しかできず、なかなか希望通りに外出を行うことができなかったが、ユニットの間にあるウッドデッキにて外の空気を吸いながらお茶を飲むなどは気候の良い時に行った。	1と同様に行っている。	コロナ禍を経て、現在は外出も緩和されている。個別の希望で買い物に出掛ける方や、周辺への散歩は日常的に支援され、天候や体調をみて当日に決まる外出(ドライブ等)もある。車いす利用であっても同様で、外の空気に触れることは五感の刺激にもなっている。また2棟の間にあるウッドデッキは日向ぼっこやお茶・おやつも楽しめる場として活用している。全く外へ出ないという入居者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的な管理・支払いとも職員が行っている。しかし、買い物等行った際にお金を渡して出してもらったり、常に自身でお金を持っていないと落ち着かれない方もおられ、紛失の可能性等含め家族様に了承いただき持たせる等の対応も行っている。	1と同様に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が電話を希望された時には事務室よりまず職員がかけて説明し本人様に話してもらっている。また、手紙をご家族に出される入居者様もおられ、職員が出したり、一緒に出しに行ったり、また届いた手紙を渡したり等もしている。	1と同様に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の環境には常に気をつけ、季節を感じるような制作物や飾りつけを意識し、職員が作ったり、入居者様と一緒に作ったり、家具等も入居者様の使い勝手や危険性を考慮した配置を心掛けている。	1と同様に行っている。	リビングを囲むような居室の配置で職員の目も届きやすい。入居者の動線上に行動を妨げる物もない。自慢は季節を感じてもらえる掲示物で、入居者と一緒に作ったり、職員の力作の時もある。玄関には安定感のあるベンチがあり、外出時の靴の履き替えを支えている。静かな田園風景の中に建ち騒音は全くない。隣接する法人事業所と共に一時間毎のチャイムで換気をしている。併せて常時開けておく箇所もあり、各居室には換気システムも設置してある。掃除を手伝える方にはモップで床拭きを頼み、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。トイレや浴室などはきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で楽しく過ごされる時間は問題ないが、一人になれる場所の確保は共用空間内では難しいので、一人になりたい時には居室を利用している。	1と同様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	ベッドとタンス、3段ボックスは備え 付けている。入居時に馴染みの物 等がある場合は持ち込み可で対応 している。担当職員を決めて居室内 の飾り等行っている。	1と同様に行っている。	持ち込む品物は使い慣れた物をと 伝えており、危険物以外に制限はな い。家族や担当職員と一緒に配置 等を決め、壁に飾った写真や観葉 植物は入居者を和ませている。事業 所に住所を移した方にとっては居室 は自宅そのものであり、居心地よく 過ごせるよう支援している。寝具は 週一回程度の布団乾燥機を使った 清潔保持をし、その際にはシーツ交 換も行っている。家族が希望すれば 居室への宿泊は可能で、看取り期も 対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫して いる	建物の構造を活かし、排泄が自立さ れている方の居室はトイレの近くに する等できることを活かすよう努め ている。	1と同様に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない